

英語科現状の分析と授業改善プラン

英語科における平成29年度改善プランの検証

- ・学習効果測定の結果を見ると、2・3学年ともに目標値を大きく上回り、前年までの取り組みについて成果があったと見ることができる。
- ・リスニングや長文の読み取り問題、場面に応じて書く英作文、3文以上の英作文などの問題に関して、定期的なリスニング練習やペアワーク、スピーチ発表や文章での表現活動の成果が見られた。

英語科における内容別結果の分析

- ・基礎問題、活用問題ともに目標値を大きく上回り、これまでの取り組みにおいて、成果があったと見ることができる。
- ・2年生は「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の上回り値はどれも高い。3年生は「書くこと」と「聞くこと」の上回り値がかなり高く、「読むこと」の上回り値も高い。

英語科観点別結果の分析

〈関心・意欲・態度〉

- ・期待正答率を大きく上回っている。個人差があるものの、全体的には概ね良好である。

〈表現の能力〉

- ・期待正答率を大きく上回っている。個人差があるものの、全体的には概ね良好である。

〈理解の能力〉

- ・期待正答率を大きく上回っている。個人差があるものの、全体的には概ね良好である。

〈知識・理解〉

- ・動名詞の活用以外は、期待正答率を大きく上回っている。

英語科の授業改善のポイント

- ・正しい語順で英文を作ることや、自分の考えを表現する力をさらに伸ばすためには、文法事項や慣用表現を確認した上で、教科書の音読練習を徹底し、目標文を活用して英文を作る練習を定期的に行うことがポイントとなる。
- ・長文の内容理解力をさらに高めるために、ワークシートなどを活用して、文法事項や慣用表現に留意させ読ませる。そして、5W1Hを把握しながら文章全体の内容を理解できるようにすることがポイントとなる。文章の要約をする発展的な活動を取り入れ、内容理解の力をつけさせたい。

英語科授業改善策

- ・正しい語順で英文を作る力や、自分の考えを表現する力を付けさせるために、
 - 1学年：教科書本文の音読練習を徹底し、目標文を活用した英文を作り発表する機会を増やす。
 - 2学年：教科書本文の音読練習を徹底し、随時既習の文法事項を復習するとともに、目標文を活用した英文を作り発表する機会を増やす。
 - 3学年：既習の文法事項と新出の目標文を反復練習し、生徒が応用して英文を作る機会を増やす。
- ・文法事項、慣用表現を把握しながら、文章全体の内容をとらえる読みや聞き取りができるようにするために、
 - 1学年：教材の全体的な内容理解のために、文化的背景を含めた補充説明を行うとともに、T or FやQ&Aを活用して5W1Hに留意しながら読み、聞く練習を行う。
 - 2学年：教材の全体的な内容理解のために、文体・文化的背景を含めた補充説明を行うとともに、T or FやQ&Aを活用して5W1Hに留意しながら読み、聞く練習を行う。
 - 3学年：教材の全体的な内容理解のために、文体・時代・文化的背景を含めた補充説明を行うとともに、T or FやQ&Aを活用して5W1Hに留意しながら読み、聞く練習や自分で内容を説明する練習を行う。